NIE実践報告

1．タイトル：豊かにかかわりながら主体的に学ぶ力を育てるNIE

2．学校名

岡山県岡山市立伊島小学校

3．実践者名（代表者名）

南再俊

4．学年

第5学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会　32人

6．単元（本時の学習課題）名

自然とともに生きる人々

7．目標(狙い)

自分たちが興味をもった都道府県に住む人々のくらしや産業の様子を、新聞を使って調べ、マイマップを作ることを通して、他都道府県のくらしや産業の様子も、自然環境と深く関係していることが理解できる。

8．評価の視点

①地方紙から自然環境と人々のくらしが結びついている記事を見つけることができたか。
②自然環境と人々のくらしが関係していることをワークシートに記入することができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「沖縄県と北海道に住む人々のくらしの様子がちがうのはなぜだろう」（10時間）
「自分が興味をもった都道府県のマイマップを作ろう」（6時間）　　合計16時間

10. 単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①本時のめあて「地方紙から自然環境と人々のくらしが結びついている記事を見つけよう」をつかむ。
②見つけた記事を記事カードに貼りつけ、その要旨をとらえる。
③自分たちのマイマップを発表し、まとめる。
④次時の予告をする。
（留意点）
・前時までの活動を振り返り、「地域によって人々のくらしが違うのは何が原因だろう」とたずね、自然環境と人々のくらしの関係に目を向けさせることで、本時のめあてをつかむことができるようにする。
・自然環境と人々のくらしの関連を調べるために各都道府県から届けられた地方紙をグループ毎に配布する。
・新聞記事の要旨を正確にとらえることができるように、5W1Hを記入できる記事カードを配布する。
・マイマップに記事カードを貼り付ける作業を助けるために、マイマップに市町村名を記しておく。
・岡山県立図書館で過去の地方紙を閲覧できるということを知らせ、二学期の発表会まで調べる活動を継続できるようにする。

11. 児童・生徒の反応、感想・意見

岡山県から遠く離れた都道府県の新聞を読むことができるとは思わなかった。普段読んでいる新聞では決して読むことができない記事を読むことができた。また、現地の様子がありのままに載っているので、その場に行った気分になれた。今までその都道府県に抱いていたイメージとは違う記事がたくさん載っていて驚いた。

12. 成果と課題

本時では、各地で地域に根ざした情報を発信している地方紙を使い、自分のもった問題を解決するための情報が得られることに気づき、地域の様子を捉える新聞活用ができるようにした。自分たちが住む地域から遠く離れた地域の様子を調べる時、図書資料やインターネットなどが先行しがちだが、その手段の一つとして地方紙が活用でき、有効な手段になることを明らかにできたのは大きな成果である。しかし、地方紙を入手するには時間がかかり、新聞の即時性という点で地元紙に劣る。また、子どもの新聞を読む力が要求されるため、5W1Hを中心に記事を読み解く力を十分に育てておく必要があり、本単元を実践する上で課題が残される。